

平成31年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成30年8月10日

上場会社名 株式会社HAPiNS 上場取引所 東
 コード番号 7577 URL <http://www.hapins.co.jp>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 柘植 圭介
 問合せ先責任者（役職名） 取締役管理部長（氏名） 塩塚 哲也（TEL）03(3494)4497
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月13日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有（証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 平成31年3月期第1四半期の業績（平成30年4月1日～平成30年6月30日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	2,282	12.7	49	229.4	33	114.7	17	—
30年3月期第1四半期	2,026	—	14	—	15	—	△4	—

（注）平成30年3月期は、平成29年3月期が決算期の変更（2月28日から3月31日）による13ヶ月の変則決算となっているため、平成30年3月期の対前期増減率については記載しておりません。

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	1.15	—
30年3月期第1四半期	△0.29	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	5,790	802	13.9
30年3月期	5,382	785	14.6

（参考）自己資本 31年3月期第1四半期 802百万円 30年3月期 785百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,500	31.0	600	297.1	530	315.4	380	—	25.71

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

31年3月期1Q	15,000,000株	30年3月期	15,000,000株
31年3月期1Q	219,025株	30年3月期	219,025株
31年3月期1Q	14,780,975株	30年3月期1Q	14,781,019株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際には様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
3. その他	7
継続企業の前提に関する重要事象等	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善傾向、雇用環境の改善や株価の上昇などに伴い、個人消費が緩やかな回復基調にあります。一方で、国内では小売り・サービス業を中心として人手不足が見られる中、海外経済の不確実性など、景気の先行きは依然として不透明な状況となっております。

当第1四半期累計期間では、前事業年度から行っている積極的な新規出店により、前事業年度を大きく上回る売上を確保しております。また、商品と品揃えの改編を推し進めた結果、粗利益を改善することができております。さらに、新規出店に係るコストの適正化・条件の改善を図ることで、安定的に利益を生み出してしております。その結果、売上高の増加、営業利益、経常利益、四半期純利益の黒字化を達成しております。

当第1四半期累計期間の出退店の状況は、短期契約である催事店舗も含めて、直営店が「HAPiNS」ブランドで11店舗、FC店舗が「HAPiNS」ブランドで4店舗出店し、直営店で1店舗退店いたしました。また、直営店で2店舗改装を実施いたしました。その結果、当第1四半期累計期間の店舗数（短期契約を含む）は、直営店が157店舗、FC店舗が16店舗の計173店舗となっております。

これらの結果、当第1四半期累計期間の売上高は2,282百万円(前年同四半期12.7%増)となり、営業利益は49百万円(前年同四半期229.4%増)、経常利益は33百万円(前年同四半期114.7%増)、四半期純利益は17百万円(前期は4百万円の四半期純損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて408百万円増加し、5,790百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べて175百万円増加し、3,123百万円となりました。これは、主に現金及び預金が58百万円減少したものの、商品が157百万円、その他に含まれる未収入金が75百万円増加したことなどによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べて232百万円増加し、2,666百万円となりました。これは、主に無形資産に含まれるソフトウェアが減価償却により6百万円減少したものの、有形固定資産が202百万円、敷金及び保証金が36百万円増加したことなどによるものであります。

(負債)

当第1四半期会計期間末の負債総額は、前事業年度末に比べ391百万円増加し、4,988百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べて280百万円増加し、3,330百万円となりました。これは、主に未払法人税等が19百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が145百万円、短期借入金が122百万円、賞与引当金が30百万円増加したことなどによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べて110百万円増加し、1,657百万円となりました。これは、主に社債が10百万円、長期借入金が9百万円減少したものの、その他に含まれる長期未払金が102百万円、資産除去債務が25百万円増加したことなどによるものであります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べて17百万円増加し、802百万円となりました。これは、四半期純利益17百万円の計上により利益剰余金が増加したことなどによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の業績予想につきましては、平成30年5月14日に公表いたしました予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	773,538	714,915
受取手形及び売掛金	621,995	618,885
商品	1,463,590	1,620,863
未着商品	2,372	6,834
その他	86,573	162,350
流動資産合計	2,948,069	3,123,849
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	875,644	1,040,940
工具、器具及び備品(純額)	139,732	177,166
その他	16,054	16,054
有形固定資産合計	1,031,431	1,234,160
無形固定資産		
投資その他の資産	97,992	91,544
敷金及び保証金	1,302,636	1,339,223
その他	2,136	2,034
投資その他の資産合計	1,304,772	1,341,258
固定資産合計	2,434,195	2,666,963
資産合計	5,382,265	5,790,813
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,103,598	1,248,627
1年内償還予定の社債	100,000	100,000
短期借入金	901,000	1,023,000
1年内返済予定の長期借入金	412,870	418,040
リース債務	15,487	15,557
未払法人税等	26,479	7,472
賞与引当金	19,040	49,630
資産除去債務	—	2,684
その他	471,974	465,980
流動負債合計	3,050,450	3,330,993
固定負債		
社債	120,000	110,000
長期借入金	841,130	832,120
リース債務	50,930	47,014
退職給付引当金	265,585	260,208
資産除去債務	212,442	238,361
その他	56,073	169,426
固定負債合計	1,546,161	1,657,131
負債合計	4,596,612	4,988,124

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成30年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	716,354	716,354
利益剰余金	29,427	46,487
自己株式	△60,580	△60,580
株主資本合計	785,201	802,262
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	452	426
評価・換算差額等合計	452	426
純資産合計	785,653	802,688
負債純資産合計	5,382,265	5,790,813

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	2,026,350	2,282,895
売上原価	916,584	992,571
売上総利益	1,109,766	1,290,324
販売費及び一般管理費	1,094,853	1,241,202
営業利益	14,912	49,121
営業外収益		
受取利息	7	5
受取配当金	296	31
破損商品等弁償金	3	115
保険配当金	10,980	—
雑収入	307	327
営業外収益合計	11,596	479
営業外費用		
支払利息	9,443	10,092
支払手数料	—	858
為替差損	1,369	4,955
雑損失	—	0
営業外費用合計	10,813	15,906
経常利益	15,695	33,694
特別損失		
固定資産除却損	0	—
店舗閉鎖損失	8,386	414
減損損失	5,042	7
特別損失合計	13,429	421
税引前四半期純利益	2,266	33,272
法人税、住民税及び事業税	6,400	7,050
法人税等調整額	179	9,161
法人税等合計	6,579	16,211
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△4,312	17,060

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度において、営業利益、経常利益、当期純利益を計上することができました。また、当第1四半期累計期間においても、営業利益及び経常利益、四半期純利益を計上することができましたが、第49期及び第50期において2期連続の営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスを計上しており、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当該状況を改善・解消すべく、平成28年4月18日にRIZAPグループ株式会社との間で資本業務提携契約を締結し、RIZAPグループ株式会社のマーケティング力やプロモーション力を活用した「売上向上の施策」や「ブランドイメージの刷新」、RIZAPグループ内の雑貨・アパレルブランドの商品デザイン力などを活用した「商品力の強化」、商品製造や店舗開発などの情報共有化によりコストを削減し「収益力強化」を進めております。

「お客様層の拡大」、「同質化しない新しいMD（品揃え）」をテーマに黒字化を目指しており、現在の中心層である30～40代女性から、シニア層も含むファミリーが価値を感じることでできるブランドを構築するため、今までは取扱いがなかったプライスライン、デザイン、テイストの商品をラインアップし、他社との差別化に取り組んでおります。

2017年11月から新店や改装店はメインブランド名を「PASSPORT」から親しみやすく覚えやすく、調べやすい「HAPiNS（ハピンス）」に変更し、ブランドコンセプトの確立に取り組んでおります。自分の周りのたくさんの人たちのなかにハッピーを生み出すことができる店という願いを込めた「HAPiNS」は、コンセプトを「ジブン色. 一人暮らし」、「幸せ空間. ミニ家族」に設定し、「HAPiNS」としてブランディングを推し進め、新規出店をすることで更なる業績の拡大を目指しております。

こうした取組みの結果、前事業年度においては営業利益、経常利益、当期純利益を計上しており、また、当第1四半期累計期間においても、営業利益、経常利益、四半期純利益を計上する結果となり、業績は改善傾向にあり、今後も継続して推進してまいります。

資金面に関しましては、運転資金の調達など取引金融機関からの継続的な支援協力を得ており、今後とも資金調達や資金繰りの安定化に努めてまいります。

上記施策により計画上、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況を解消できると考えており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。